

2018年12月16日

内閣総理大臣 安倍晋三様

防衛大臣 岩屋 毅様

辺野古米軍新基地建設の土砂投入に抗議し、

新基地建設の中止を求めます

栃木県栃木市片柳町2-7-63 玉田文男
玉田明子

日本政府は12月14日、辺野古の米軍新基地建設に伴う埋め立て土砂投入を強行しました。これは知事選挙で示された県民の新基地建設反対、辺野古埋め立て反対の圧倒的な民意を踏みにじる絶対に許されない暴挙です。来年2月に予定されている辺野古への移設賛否を問う県民投票の前に土砂投入を強行して、諦めさせようというのでしょうか・・・

沖縄に対する政府の姿勢は、民主主義、地方自治を無視した、道義に反する許されない行為です。「沖縄に寄り添う」と言った安倍首相の言葉とは、いったい何だったのでしょうか!?

辺野古の海は、県民が貴重な宝の海として守ってきたもので、ここに土砂が投入されれば豊かな海が壊され取り返しのつかないこととなります。

工事予定地の大浦湾側にはマヨネーズ状の軟弱地盤が明らかになり、玉城知事が工法変更を認めないため工事本格化の見通しも立っていない、13年もかかるとの予想もマスコミで報道されています。

まずは、普天間基地の返還をこそ、アメリカと交渉すべきです。

いま、朝鮮半島の非核化と平和体制構築への努力が進められ、先日の日中首脳会談でも「脅威ではなくパートナー」と確認しています。政府が目指すのは新基地建設を強行することではなく、憲法9条を掲げる国として、軍事力でなく平和的な『外交努力』であるべきです。新基地建設、軍備増強は軍拡競争に拍車をかけるだけであり、決して「平和」には向かわない、と考えます。私たちは、土砂投入計画の中止を求め、県の埋め立て承認撤回決定に基づき、新基地建設計画の白紙撤回を強く求めます。

以上